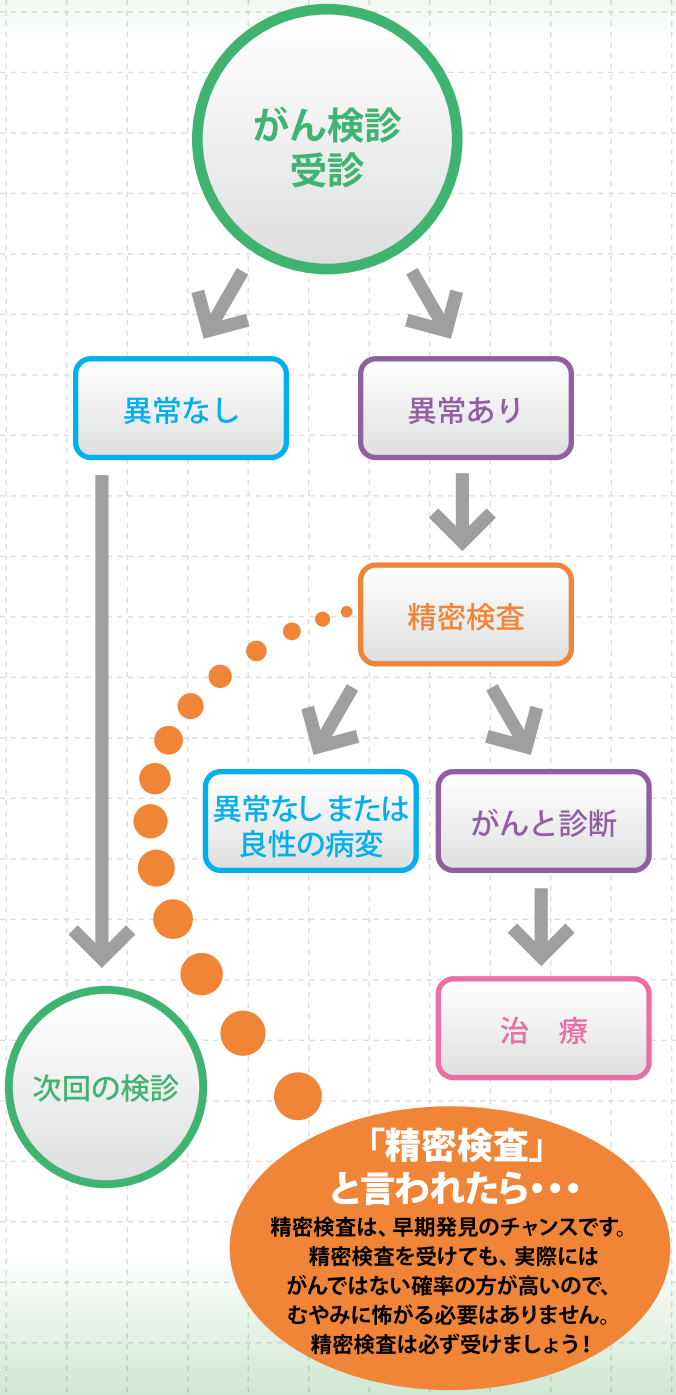
がん検診の流れ

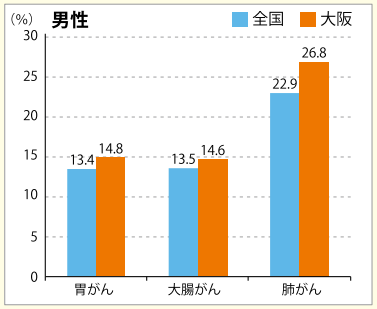


「精密検査」と言われたら・・・

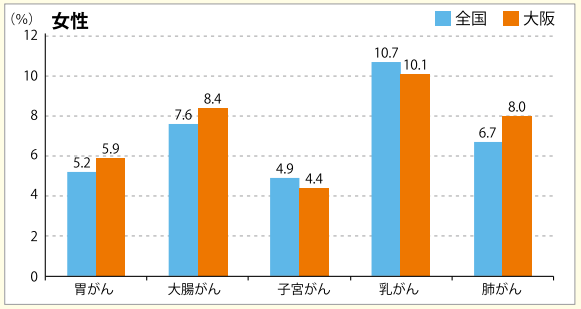
精密検査は、早期発見のチャンスです。
精密検査を受けても、実際には
がんではない確率の方が高いので、
むやみに怖がる必要はありません。
精密検査は必ず受けましょう！

大阪府の現状

部位別75歳未満年齢調整死亡率（2015年 人口10万人当たり）

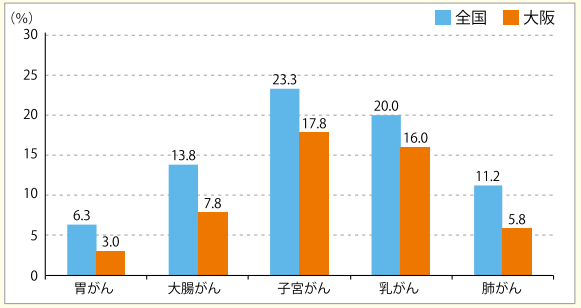


大阪府では
全てのがんで、
全国と比べて
死亡率が高く
なっています。



出典：国立がん研究センターがん対策情報センター

がん検診受診率



出典：厚生労働省 平成27年度 地域保健・健康増進事業報告
40歳～69歳（子宮は20～69歳）で算出

大阪府の
がん検診受診率は、
どのがんも
全国より低く
なっています。

**検診を受診すれば、
早期発見・早期治療が可能です。
ぜひ定期的に検診を受けましょう！**

※がん検診は、市町村や職場の検診で受けることができます。
市町村でがん検診を受けられる際は、実施日程や費用等が異なります。
詳しくは、お住まいの保健所、保健センター等へお問い合わせください。

がん予防キャンペーン大阪事務局
〒536-8588　大阪市城東区森之宮1-6-107
大阪がん循環器病予防センター内
TEL. 06-6969-0676

**日本人の2人に1人が、がんになっています。
がん検診で、早期発見・早期治療を！**

健康と思う今こそがん検診

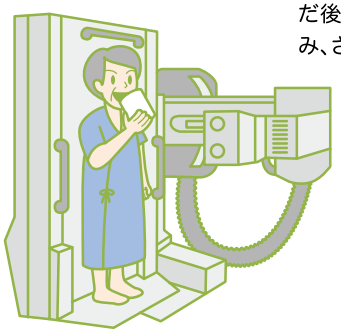
がん予防キャンペーン大阪

http://www.osaka-ganjun.jp

胃がん検診

対　象　40歳以上の男女
受診間隔　1年に1回
検査内容　問診・胃X線撮影

◎胃X線撮影



胃を膨らませる発泡剤を飲んだ後にバリウム（造影剤）を飲み、さまざまな角度から胃の内部をX線で撮影します。
胃の内部の変化が分かるので、胃がんだけでなく、潰瘍やポリープなども発見できます。

大腸がん検診

対　象　40歳以上の男女
受診間隔　1年に1回
検査内容　問診・便潜血検査

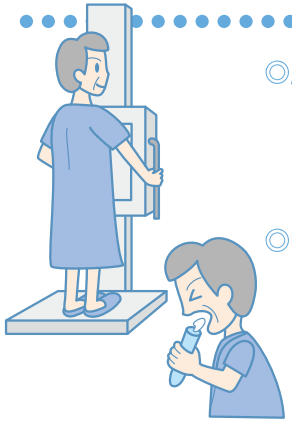
◎便潜血検査

専用の検査容器に少量の便を採取して提出します。
便に潜む血液の有無を調べます。
大腸のがんやポリープなどが発見できます。

※便潜血陽性と言われたら、大腸内視鏡検査を受ける必要があります。

肺がん検診

対　象　40歳以上の男女
受診間隔　1年に1回
検査内容　問診・胸部X線撮影・喀痰細胞診（問診で必要と認めた場合）



◎胸部X線撮影

X線で肺全体を撮影します。
肺野部（末梢部）にできるがんの発見に適しています。

◎喀痰細胞診

痰を採取し、肺がんの細胞が混じっているかを顕微鏡で調べます。X線撮影で見つけにくい肺門部（中心部）にできるがんの発見に適しています。

子宮頸がん検診

対　象　20歳以上
受診間隔　2年に1回
検査内容　問診・視診・内診・細胞診

◎内診

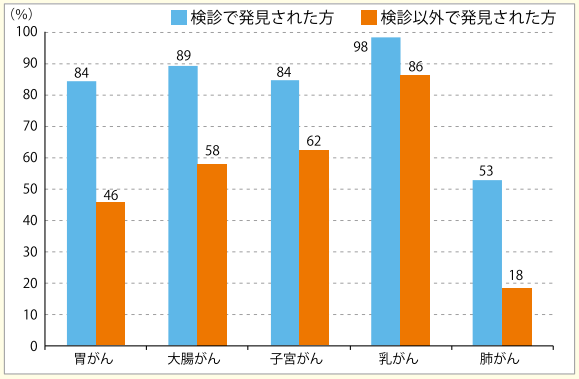
膣内に指を入れ、下腹部の上を軽く圧迫しながら子宮、卵巣、子宮近辺を触診します。

◎細胞診

子宮頸部の細胞を専用の柔らかいヘラなどで擦り採り、採れた細胞を染色し、顕微鏡で調べます。

がんの5年相対生存率

がんと診断され、治療でどのくらい生命を救えるかを示す指標で、5年後に生存している人の割合を表します。



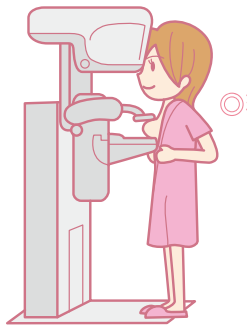
出典：大阪府地域がん登録（平成15年～17年にがんと診断された患者）

どのがんも検診で発見された人は、検診以外で発見された人より、5年相対生存率が高くなっています。
検診でがんを早期発見できれば、早期治療ができ、治る確率も飛躍的に上がり、完治も可能です。

乳がん検診

対　象　40歳以上
受診間隔　2年に1回
検査内容　問診・視触診・乳房X線撮影（マンモグラフィ）

◎視触診



医師が乳房を見たり触ったりして、乳頭のひきつれやしこりの有無、リンパ節の状況などを調べます。

◎乳房X線撮影（マンモグラフィ）

乳房を片方ずつプラスチックの2枚の板ではさみ、撮影します。
撮影中は乳房に少し圧迫痛を感じることがありますが、月経の一週間前を避けると痛みが少なくなります。触診では見つからないような小さながんを発見することができます。